

平成16年6月期 第3四半期財務・業績の概況 (非連結)

平成16年5月11日

会社名 株式会社 武井工業所
(URL <http://www.take21.co.jp>)

(コード番号: 5286 登録銘柄)

代表者役職名 代表取締役社長
氏 名 武井 勇
問合せ先責任者役職名 特別顧問
氏 名 南崎 徳蔵

TEL : (0299) 24 - 5216

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 (無)

2. 平成16年6月期第3四半期財務・業績の概況 (平成15年7月1日～平成16年3月31日)

(1) 経営成績の進捗状況

(百万円未満切り捨て)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成16年6月期第3四半期	6,063	(2.7)	172	(3.6)	127	(4.3)	13	(90.1)
平成15年6月期第3四半期	6,231	(5.1)	178	(163.1)	133	(796.1)	137	(-)
(参考)平成15年6月期	7,555	(5.7)	71	(176.3)	9	(105.7)	7	(102.9)

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
平成16年6月期第3四半期	3	87	-	-
平成15年6月期第3四半期	38	91	-	-
(参考)平成15年6月期	1	98	-	-

- (注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
3. 上記、四半期の数値は監査法人による監査は受けておりません。

[売上高に関する補足説明]

品種別の売上高は次のとおりであります。

なお、売上高につきましては、季節的変動が著しく、下期に集中する傾向があります。

(品種別の売上高)

(百万円未満切り捨て)

区分	期別 種別	平成16年6月期 (第3四半期)		平成15年6月期 (第3四半期)		平成15年6月期 (参考)	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
製品	道路用製品	983	16.2	1,018	16.4	1,238	16.4
	水路用製品	1,734	28.6	1,577	25.3	1,914	25.3
	擁壁・土止用製品	500	8.2	464	7.4	605	8.0
	法面保護用製品	908	15.0	1,400	22.5	1,562	20.7
	その他	186	3.1	140	2.2	181	2.4
	小計	4,313	71.1	4,601	73.8	5,502	72.8
商品	コンクリート二次製品	907	15.0	914	14.7	1,143	15.1
	その他	749	12.3	715	11.5	833	11.1
	小計	1,656	27.3	1,629	26.2	1,976	26.2
	工事	93	1.6	-	-	77	1.0
	合計	6,063	100.0	6,231	100.0	7,555	100.0

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期までの業績は、売上高は60億6千3百万円と減少(前第3四半期比 2.7%)となりました。これは、自社製品の出荷高が1月と2月に過去10年来で最高水準を記録したものの、3月には一転して最低の出荷高となり当第3四半期通期でほぼ横ばいにとどまり、法面保護製品の前年同期比売上高減をカバーしきれなかったこと、さらに、緩やかになったとはいえ販売価格の下落が依然として続いたことによるものであります。

一方、利益面につきましては、売上高の減少および原材料費と運賃の上昇といったマイナス要因を製造人件費をはじめとする経費削減によりカバーし、営業利益1億7千2百万円(前第3四半期比 3.6%)、経常利益1億2千7百万円(前第3四半期比 4.3%)とほぼ前年同期並を確保しましたが、当第3四半期純利益は1千3百万円(前第3四半期比 90.1%)にとどまりました。

(2) 財政状態の変動状況

(百万円未満切り捨て)

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
平成16年6月期第3四半期	7,566	1,563	20.7	441 74
平成15年6月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)平成15年6月期	7,157	1,566	21.9	442 36

(注) 前第3四半期は作成していないため記載しておりません。

[キャッシュ・フローの状況]

(百万円未満切り捨て)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成16年6月期第3四半期	150	187	53	852
平成15年6月期第3四半期	-	-	-	-
(参考)平成15年6月期	361	168	338	836

(注) 前第3四半期は作成していないため記載しておりません。

[財政状態の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローの増加1億5千万円、投資活動によるキャッシュ・フローの減少1億8千7百万円、財務活動によるキャッシュ・フローの増加5千3百万円となり、現金及び現金同等物は1千6百万円増加し、第3四半期期末残高は8億5千2百万円となりました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期における営業活動の結果得られた資金は、1億5千万円となりました。この主な増加要因は、減価償却費2億4千4百万円、第3四半期の受注・売上に備えるための原材料費等の購入による仕入債務の増加1億2千2百万円等があったことのほか、主な減少要因としては、第2四半期に予定しておりました護岸用ブロックの売上が第3四半期にずれ込んだ影響による売掛金の増加4億1千9百万円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期における投資活動の結果使用した資金は1億8千7百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出3億1千万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期における投資活動の結果得られた資金は、5千3百万円となりました。この主な増加要因としては、長期借入金による収入11億円及び社債発行による収入3億円であり、主な減少要因としては、短期借入金の返済による支出4億8千万円、長期借入金の返済による支出8億4千8百万円によるものであります。

(注) 上記の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

3. 平成16年6月期の業績予想（平成15年7月1日～平成16年6月30日） （百万円未満切り捨て）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり年間配当金
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	7,400	3	110	- -

[業績予想に関する定性的情報等]

上記、業績修正に関して、売上高については、前回予想72億円に対し、74億円と約2億円増加する見込みですが、前期実績75億5千5百万円に対しては約1億5千5百万円減少の見込みであります。

経常利益・当期純利益については、諸経費の削減効果はありましたが、それ以上に原材料費の高騰が響き、経常利益は僅少に留まる見込みであり、当期純利益につきましては、役員退職金並びに取引金融機関の破綻による投資有価証券評価損など特別損失約1億円が発生した結果、大幅な欠損となる見込みであります。

上記に伴い、1株当たりの期末配当金を5円と発表しておりましたが、今回は無配当に修正させていただきます。

以上